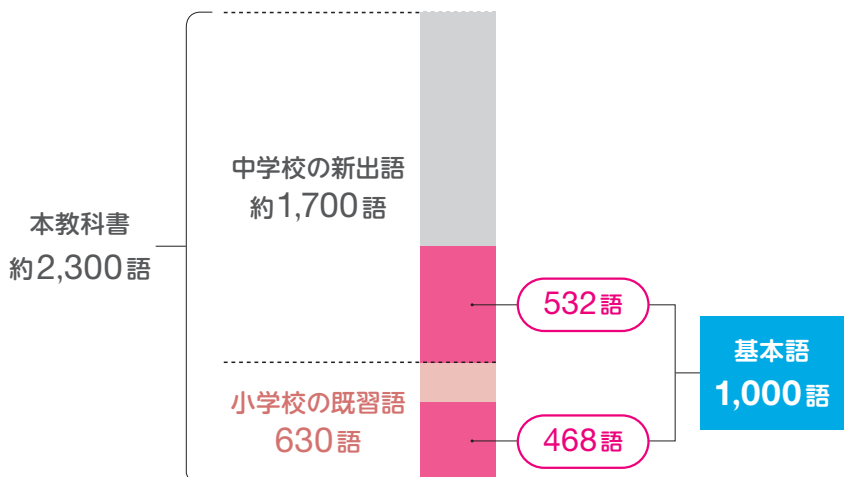


語彙の扱い・時数への配慮

●新課程の語彙への対応

増加した
語彙への配慮

新学習指導要領では、小学校で扱った600～700語に1,600～1,800語を加えた語を扱うように示されています。本教科書では小学校の既習語として630語を選び、中学校の新出語を約1,700語とし、合計約2,300語を取り上げています。



Point
1

1,000語を基本語として厳選。これらがしっかり身につけば、中学生として十分に豊かなコミュニケーションを行うことができます。

Point
2

中学校の**新出語は本文から**取り上げています。授業で扱う本文で取り上げることが効果的と考えられます。

Point
3

語彙の学習をサポートする教材やワークシートを発行予定。生徒の自学自習を支えます。

→資料②「指導書資料」p.④

語句欄の見方

単語の扱いがわかりやすいように、次のような区分を設けて示しています。

New Words

front

① 基本語

基本語は太字にしています。話したり書いたりして発信できる程度にまで定着させたい語です。CEFR-JのA1レベルや、従来多くの中学校教科書で取り上げられていた語などから選定しています。

nervous

② 準基本語

worry

yourself

David デイビッド[名]

③ 題材語

Green グリーン[姓]

(訳つき/☑なし)

enjoy yourself

連語

how's ← how is

短縮形

小学校の単語

listen

小学校の単語

既習語扱いですが、登場する箇所には囲みで明示しています。

2,300語全てを定着させる必要はありません。各単語の重要度や生徒の学習段階に合わせて軽重をつけて指導したいですね。また、生徒によって、発信に使う語が異なることにも留意しましょう。



●各学期の配当時数

週4時間(年間140時間)の中で、余裕をもって授業を進められるように配当しました。

	3学期制			2学期制		合計
	1学期	2学期	3学期	前期	後期	
1年	41	39	23	51	52	103
2年	45	42	21	58	50	108
3年	46	44	9	59	40	99